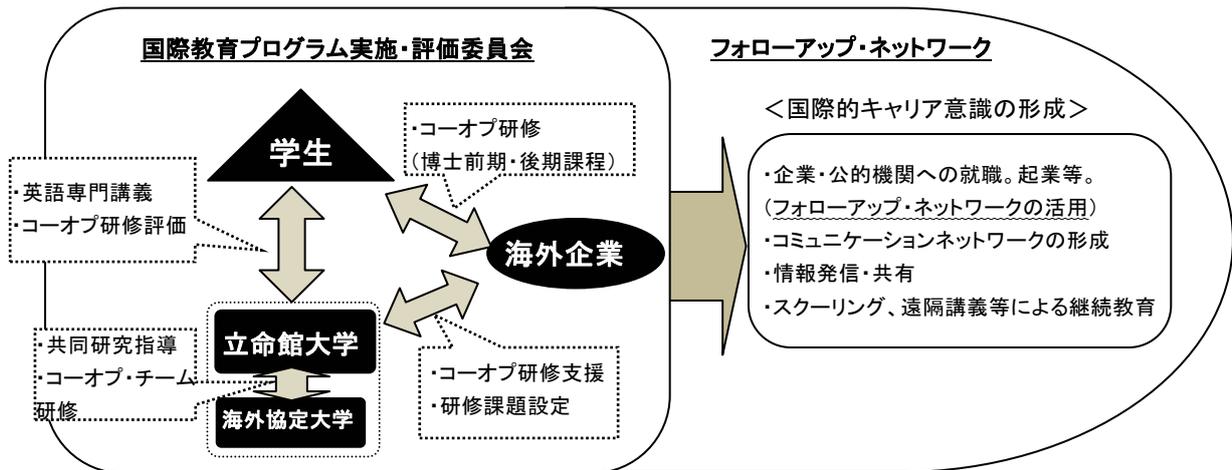


教育プログラムの概要及び採択理由

| | | | |
|--|-----------------------|---------|------|
| 機 関 名 | 立命館大学 | 申請分野(系) | 理工農系 |
| 教育プログラムの名称 | 国際力を備えた技術系大学院学生の育成 | | |
| 主たる研究科・専攻名 | 理工学研究科創造理工学専攻、総合理工学専攻 | | |
| (他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名) | | | |
| 取組実施担当者 | (代表者) 坂根 政男 | | |
| <p>[教育プログラムの概要]</p> <p>近年のわが国を取り巻く国際競争の激化の中では、これまで以上に実践力を有する人材が必要とされている。すなわち、専門的知識だけでなく、「英語でのプレゼンテーション力」、「英語での交渉力」、「企画力」など、高度なコミュニケーション能力を同時に備えた「国際力」に長けた研究者、高度専門職業人の養成が強く求められている。</p> <p>本教育プログラムでは、本学の大学院博士課程前期・後期課程の教育理念である「創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人を養成すること」を「国際的キャリア意識の形成」という視点から具体化し、「国際力」を備えた人材を育成することを目標とする。</p> <p>「英語による専門的知識」の修得と同時に、実践的な英語能力を身につけるために、海外企業での「海外コーオプ研修プログラム」、海外協定大学との「共同研究指導」、を実施する。さらに、修了後の継続的学習、情報発信・共有のための「フォローアップ・ネットワーク」を構築する。これらを通して国内外の企業や研究機関で活躍できる人材を、毎年30名、養成する。以下の【ステップ1～4】と、【支援・評価体制】から構成される。</p> <p>【ステップ1】: 「英語による専門教育」 国際舞台で研究者や専門職業人として活躍するためには、国際的な共通言語である英語の実践的な運用能力を身につける必要がある。すでに英語で講義を実施している現行の「国際産業工学特別プログラム」を留学生と一緒に受講させるプログラムの充実化を図る。 『評価の視点』・・・TOEICミニマムスコア(博士前期課程:700点、後期課程850点)の達成。</p> <p>【ステップ2】: 「海外コーオプ研修」 コーオプ教育とは、6ヶ月～1年間の中長期間にわたって、学生、企業、大学の3者が連携して実習を行い、専門とする学問領域における現実的な解決手段を学修する教育プログラムである。異文化就業体験をさせ、国際水準から見た研究者や技術者像を学び、専門的力量、英語の運用能力を身につけさせる。このことは、国内だけでの学習では達成できない「国際水準で活躍できる研究者および技術者になるための継続的な動機付け(国際的キャリア意識の形成)」の意義を持つ。海外コーオプ教育では、派遣学生、本学、そして、海外に展開する日系企業、および協定大学が連携して実習を進める。企画立案等の事前研修、海外企業での実践研修、成果発表・事後研修、報告書作成、を協定大学学生とチームを編成して行う。 『評価の視点』・・・英語による報告書作成、成果報告会の実施。</p> <p>【ステップ3】: 「共同研究指導」 海外協定大学に連携研究室を設け、研究面での国際意識を涵養し、海外での学修、研究活動を通して、専門分野における国際力を身につける。同時に、現地の言語を学習し、日常的な活動が円滑にできる能力を身につける。 『評価の視点』・・・英語による研究成果の公表、中間・最終報告会の実施。</p> <p>【ステップ4】: 「フォローアップ・ネットワーク」 より高度な国際力を身につけるために、上記のステップ1～3に加えて、継続的なフォローアップ体制を設ける。フォローアップ・ネットワークとは、本教育プログラム修了生が企業や研究機関に就職した後、あるいは博士後期課程へ進学した後に、「横のつながり」をさらに展開するための、協定大学の教員、学生、研修先企業を含めたネットワークである。日常的な情報交換のみならず定期的なスクーリングを行うことで、より強力かつ実質的な国際力を涵養し、国際的人材育成の高度化を図る。</p> <p>博士前期課程で、1回目の各ステップの段階的な学修により高度職業人としての資質を高め、博士後期課程では2回目の各ステップの学修により研究者として国際的に活躍できる人材に育成する。</p> <p>【支援・評価体制】: 本教育プログラムに理工学研究科教員からなる「国際教育プログラム実施・評価委員会」、および支援コーディネーター(本プログラム予算にて採用)を置く。「国際教育プログラム実施・評価委員会」は、学生、研究指導教員との日常的な支援以外に、海外協定大学での学修・研究や海外企業での研修などの、海外活動の円滑な遂行、支援・評価を行う。同時に、支援コーディネーターは、フォローアップ・ネットワークの構築を実施する。海外における支援には、既存の立命館大学アジア太平洋大学(APU)の海外事務所、協定大学を拠点とする。また、FD活動として、企業人、学内外大学教員、参加学生等による評価を随時行う。</p> | | | |

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）

国際力を備えた技術系大学院学生の育成プログラム



プログラムの実施例

RU: 立命館大学, XU: 海外協定大学, P: 指導教員 (RU), Q: 共同指導教員 (XU)

| | プログラム学生 | 国際教育プログラム実施・評価委員会 |
|----------|--|---|
| 入学前指導 | (1) 指導予定教員 (P, Q) との研究テーマの事前打ち合わせを行う。 (2) 海外コーオプ企業および課題を決定する。 | ・国際連携共同研究指導教員 P, Q の決定 ・海外コーオプ企業および課題を提示する。 ・連携研究室の選定 (派遣・共同研究指導) |
| 博士課程前期課程 | 第1・2セメスター <ステップ1> 専門講義(英語) 1~4セメスターの間に下記の講義を受講する。 Common Courses 科目より6単位以上。 Seminar 科目より8単位以上。 Special Majors 科目より10単位以上。 Special Research 科目より6単位以上。 合計: 30単位以上を修得する。(XU単位の認定申請) <TOEIC ミニマムスコア: 700> <ステップ2> 海外コーオプ研修 ・事前研修 ・海外コーオプ派遣・研修。 ・協定大学学生とチームを編成し研修する。 ・中間成果発表を行う。 <英語による報告書作成、成果報告会の実施。> | ・XU 共同研究指導教員の RU 招聘。共同研究指導内容の確認。(第1回目)。 ・支援コーディネーターの海外コーオプ企業訪問。コーオプ研修内容の確認。事前研修の実施。 ・RU 共同研究指導教員の XU 派遣。共同研究指導内容の確認。(第2回目)。 ・支援コーディネーターによるコーオプ研修支援。 ・RU 共同研究指導教員の XU 派遣。研究中間評価に参加し、成績評価を行う。 ・RU 共同研究指導教員の XU 派遣。共同研究指導内容の確認。(第3回目)。 ・支援コーディネーターによるコーオプ研修の中間評価。 ・支援コーディネーターによる事後研修の実施。 ・国際教育プログラム実施・評価委員会による海外コーオプ研究成果の成績評価。 ・XU 共同研究指導教員の RU 招聘。共同研究指導内容の確認。(第4回目)。 ・XU での取得単位の RU での認定 (10単位上限)。 |
| 博士課程後期課程 | ・専門講義(英語)の受講 ・研究マネジメント科目、国際知財関連科目等の履修 <TOEIC ミニマムスコア: 850> 後期課程・海外コーオプ研修 <英語による報告書作成、成果報告会の実施。> 国際連携研究室による共同研究指導 <英語による研究成果の公表、中間・最終報告会の実施。> | ・研究力と国際力の醸成 ・前期課程で修得した体系的な高度専門知識と柔軟な発想力を駆使した独自の研究展開を指導・支援する。 ・研究マネジメント能力、リスクマネジメント能力、国際知財マネジメント能力、等の涵養。 |
| | <ステップ4> フォローアップ・ネットワークの構築 ・支援コーディネーターを中心とした、プログラム学生、関係機関の間のネットワーク作り。 ・ホームページ等を利用した情報の発信や共有。 ・修了後のスクーリング、遠隔講義等による継続教育の推進。 | |

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「理工学の専門領域に関する高度な理論と技術に加え、創造的発見能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人の養成」という、社会のニーズに対応した人材養成目的が明確に掲げられており、それに沿った共通科目、固有専門科目、演習・特殊研究科目等のカリキュラムを置き、海外の大学との共同研究の展開のために「国際連携研究室」などの整備がなされている点は高く評価できる。

教育プログラムについては、技術系大学院学生の国際力の養成を目指す教育プログラムとなっており、専門的知識だけでなく「英語でのプレゼンテーション力」「英語での交渉力」「企画力」を身につけさせるという人材育成目的を具現化するため、特に、「英語による専門教育」、6ヵ月～1年間にわたって海外企業との連携により実施する「海外コーオペ研修」などが計画されている点は高く評価できる。また、留学生を対象とした英語による講義、国際産学連携推進などのこれまで取り組んできた実績から見ても、実現性、実効性が期待できる。ただし、国際力の評価方法、および本プログラムの評価・改善のための体制の更なる具体化が望まれる。